

第1回持続可能な歩いて暮らせる新しいまちづくりセミナー

1 日時
平成18年10月15日(日)10時~12時

2 場所
郡山市市民プラザ7階大会議室

3 内容

(1) 講演

講師：日本大学工学部教授 堀井雅史氏

別紙レジメ「持続可能な歩いて暮らせる新しいまちづくりに向けて - 交通システムの観点から」に基づき説明。

(2) パネルディスカッション

コーディネーター：日本大学工学部教授 堀井雅史 氏

パネリスト：五十嵐有美子 氏

関根みどり 氏

【パネリスト】

13日(金)、14日(土)と2日間視察。

車の規制を行い、空気が良くなったが、カラーコーンは工事現場を連想させた。ガードマンにも違和感を覚えた。

一番良かったのはまちなか循環バス。デザインが良く、段差がないため高齢者や乳母車でも乗りやすい。

街なか循環バスは、武蔵野市のムーバスに似ていた。ムーバスは運賃が1回100円で、「路線バスが無く、街に行けない」という一人の老人の投書がムーバスのきっかけとなった。

街なか循環バスを3日間で終わらせるのは非常に残念。続けていくことが大事。1,2年継続すれば、バス利用者が増えるのでは。

全般的に交通サービスは良かったが、バスに乗ったときの景観が課題。

イベントについては課題が残る。例えばオープンカフェなどは椅子、テーブルがとりあえず置いてあるだけで、テーブルの上に物が置いておらず、接客もない。

ストリートミュージックは、椅子のレイアウトが重視しておらず座りにくかった。また、椅子自体が安っぽかった。

イベントについては、居心地の良さに対する配慮が必要である。

【パネリスト】

郡山市は朝、開成山とせせらぎ小道で歩行者が賑わっている。この人達に社会実験が好評で、街なかに目的ができたので歩いて行って来たという人が結構いた。

サービスの供給者として、シルバーの活用をお願いしたい。サービスコーナーで街の案内や歴史を語ってもらうなどの取り組みはできないだろうか。

子供と老人に優しい街が誰にとっても優しい街であるので、そのような街を目指して欲しい。

【コーディネーター】

オープンカフェは残念ながら置いてあるだけ。他の都市の調査によれば、オープンカ

フェに座らない理由としては、そもそも座る理由がない、座っていいかわからない、メニューもないのでよくわからない、といったものが多かった。

【パネリスト】

昔は買い物に行けば店の人との触れあいがあった。人と人がふれあい、人が生き生きとしたまちづくりが大切。

郡山市の農産物の評価が高まっている。地域のことを自分たちで再評価し、愛着を持てるまちづくりを進めたい。

行政には、歩いて面白いまちにして欲しい。

【パネリスト】

空洞化したまちを今後どうしていくかというのは非常に難しいテーマ。

今までは、全てが拡大基調の中で、土地の用途純化を進めた結果、衣食住の距離が広がり、それを結ぶために車が必要になった。

これからのまちづくりは、純化したものから多様性へと転換していくことが必要。

街なかに駐車場が多いので街並みがない。駐車場をつぶして文化施設などを建てていくことが必要。

今回の社会実験は公共交通の良さに気づかせてくれる非常によいきっかけとなった。自分自身、車社会に疑問を持ったことがなく、郡山ではバスに乗ったこともなかったが、今ではバスに乗るようになった。

名古屋市では、交通分担率を車7：公共交通3という現在の割合を、将来は車6：公共交通4へシフトしようとして取り組んでいる。1人1人の生活パターンを少しずつ変えていこうという取り組み。

ここ数年のマンション建設で、郡山の街なかには300世帯ほど増加すると言われているが、一歩間違えると渋滞し、混乱した街なかになってしまう。関係者が一致団結して同じ方向を向いてまちづくりをする必要がある。

(3) 質疑

【感想】(参加者)

福島交通ではICカードを作るなど、いろいろとがんばっている。

公共交通が必要だという人は多いが、実際は乗らない。社会実験は公共交通を考えるいいきっかけとなったと思う。

オープンカフェについては、だれかが座っていないと、誰も座らない。座った時に何かを進めてきたのは、きくやだけだった。

なかまち夢通りにある常設のオープンカフェにも人は座っていなかった。日本人はなれていないのでは。

【感想】(参加者)

人が歩くとあいさつをする。このことによって、まちが明るくなる。

商売をする人は、親切な対応が必要。

【感想】(参加者)

4号から駅に行く人から渋滞のため苦情があった。

オープンカフェについては、ハードはつくるがサービスの提供が出来なかった。反省すべき点だ。

【質問】(参加者)

これまで、国の施策として車産業界を育成し、道路特定財源で道路整備を進めてきた。

道路特定財源を財源に公共交通へ補助し、公共交通の料金を無料にすればいいと考えるがどうか。

【回答】(コーディネーター)

特定財源を一般財源化するという話もあるが、特定財源を公共交通にまわせば、道理

を利用する人にとっても恩恵を受けることが出来るので、公共交通に対する補助は賛成。

【感想】(パネリスト)

バスの話が多いが、タクシーを使う立場から言わせてもらおうと、駅や文化施設周辺のタクシーの配車をうまくやって欲しい。

公共交通については、無料というのは良くないと思う。

【感想】(パネリスト)

人口が減少している中で、郡山市ではまだ右肩上がりの開発をしている。行政が縦割りで連携がとれていない。市民がついてこない理由はそこにあるのではないだろうか。

堀井先生の講演の中で紹介されていた先進地は、市民を巻き込んで組織を立ち上げている。市民の意見を取り入れて交通を考えていく場が必要。

【感想】(コーディネーター)

今回の取組みを実験として終わらせるのはもったいない。定着するように改善していく必要がある。